



表現する力を育む ～小学校の学びを見据えて～

副園長 米澤 千秋

先日、4歳児クラスを対象に、東京都文化会館の事業「ミュージック・エデュケーション・プログラム アウトリーチ・ワークショップ」を開催しました。このワークショップは、音楽や芸術に対する関心を高め、自己表現能力やコミュニケーション能力を養うことにより、豊かな心を育てることを目的としています。ネズミに扮したお姉さんが、ピアノやコントラバス、歌などを取り入れながら、子どもたちをチーズ探しの探検に誘います。感染症対策を行いつつの進行でしたので、みんなで歌うことはできませんでしたが、子どもたちは語りや音楽にどんどん引き込まれ、「静かにしないとネコに見つかっちゃうよ」とドキドキしたり、「楽しいね〜！」と踊りを楽しんだりしました。このように、幼児期にお話の世界に浸り、保育者や友達と一緒に心を動かし、表現することを楽しむ経験はとても大切です。

保育・教育を進める上で指針となる『保育所保育指針・幼稚園教育要領』では、「保育士等とごっこ遊びをする中で、言葉のやり取りを楽しむ」「絵本や物語などに親しみ、言葉に対する感覚を豊かにし、先生や友達と心を通わせる」「自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう」と示されています。

今、3歳児～5歳児クラスはこども劇場に向けて劇遊びに取り組んでいます。3歳児は簡単なストーリーに添って、繰り返しの動きや言葉表現を楽しんでいます。4歳児はお気に入りの言葉を友達と一緒に言ったり、役になりきったりすることを楽しみ、学級の友達とのつながりを感じています。5歳児は、役や場面に合った演出や劇中で使用する道具などについても友達と考えを出し合えるように、保育者が一人一人の考えを引き出しながら、進めています。また、登場人物の心情にも気付けるよう働きかけ、動きや言葉で表現できるようにしています。これらのことは、小学校の国語科「話す・聞く・書く・読む」ことの領域で重視されている「自分の考えを形成する学び」の基礎となります。

今年度1、2歳児は、こども劇場は行えませんが、普段の生活の中で手遊びやリズム遊びなどを楽しんでいます。また、散歩から帰ってくると「ワンワンバス見た」など、見たこと感じたことを全身で表現し、保育者に伝えています。そして、しっかり、ゆったり受け止めてもらうことで会話を楽しみ、語彙が増え、自ら話したい気持ちが育まれています。

このように、乳児から幼児、幼児から小学生へと成長していく発達段階を踏まえ、子どもたちの表現する力を培っています。

進級・就学まで残り2か月。これまで通りに行うことが難しい状況が続きますが、子どもたちに経験させたいことは何かということに常に立ち返り、方法等を工夫し、保護者の皆様のご理解ご協力をいただきながら、子どもたちを育てていきたいと思っております。